最近に於ける欧洲各国の事情

木本茂三郎氏

東京基督教青年会

総主事 木本茂三郎

The Present Conditions of European Countries

Mosaburo Kimoto

General Secretary, YMCA, Tokyo, Japan

私はYMCAの仕事をしているものであるが、今回欧洲大陸を一月半許り（7月30発～9月16羽田着）旅行した。今日世界各国にYMCAがあり、世界各国が協同していくという組織即ち世界同盟というものができて丁度100年になり、その創設はパリに於てであったので、今年100年記念会をパリで行ったのである。

青年会員、少年会員（高校生）、中学生の会員及我々年令層のものが約一万人数集まる予定の所約6千人許り集まった。

私が欧洲を訪問するに当り、例の四巨頭会談が欧洲人に如何なる刺激を与えているかを気にかけていたので、現地の人にきいた所、矢張りあのおかげで欧洲には当分戦争はないのではないかという意見で非常に明るい印象をうけたのである。

次いでイタリアに4、5日いて、ジュネーブにいったのだが、その時に皆様よく御存知の原子力平和利用会議が開かれていた。

この国連の中には政府代表の外に各方面の代表（例えば赤十字とかYMCAとか）が居るのであって、私共も会議の模様を参観したり、各国の展示会を参観したりした。

我々は門外漢であるから分らないが、私はそのカタログを市河さんにも差上げたのであるが、カナダあたりは大きな寝台の形をしたものに患者がねて放射能アイソトープを照射してガンなどを治療するものがあった。これがその時出ている医療器械の大きなもので、その外ソ聯などはアバタなどの“はんこん”を治す美容整形の器械を出していた。医療における原子力の応用、又植物の品種の改良など我々に興味深いものがあった。無論動力の利用というものは非常に多くその発電設備の模型など陳列され、ジュネーブを訪問したものはこれをみてきたわけであろう。

フランスからジュネーブまでは飛行機で一時間半、汽車では晩に立って朝着くほどの距離で、フランスで我々が会議をしているとなりでは原子力の会議が開か

れているというわけで、もう原子力の時代になったのだという様なことを意識されたのである。

このYMCAの会議について、たゞ一つだけ皆様に申し上げたいことは、従来YMCAの世界同盟の委員長は白人が占めていたのであるが、今度はアフリカの色の黒い人がえらばれた。勿論この人は永い間アメリカで教育をうけた人ではあるが、こういう人が我々の世界同盟の代表となったということは劃期的なことであるといえるのである。

今国連に於て、フランスの代表がその植民地政策の關係からその代表を引あげるといことが報道されているが、この委員長になったリベリア人についても政治的には色々反対があったが、結局人物がよくて、又奉仕の精神にみちて仕事をしてくれる人ならばいいではないかというので委員長にえらばれたのである。

私が前に1939年（昭和4年）にもかかる会議がオランダで開かれた時出席したが、その6週間の滞欧中に例の独ソ不可侵条約締結が発表され、今にも戦争がおこるのではないかという混雑の中をかえってきたわけである。丁度ジュネーブで我々の歓迎会が開かれ、それに出席した時、欧洲の人に近く戦争がおこるのではないかときいた所、人々はどうして分るかという反問があったりして、丁度その時に独ソ不可侵条約が発表されたのである。私は前にこういう経験もち、今回戦争の中はさんで16年目に欧洲を訪問したので、こういう点から幾分前と比較するという気持ちでみてきたわけである。

先づまわった10ヶ国の各国についてかいつまんで申し上げたい。

先づイタリアであるが、私はよく人にいわれるのだが、君がたゞ1ヶ国だけ訪ねることになれば何国へ行くかと問われれば即座にイタリアと答える。それほどイタリアは、例えばローマにしても、世界的宝庫といわれる絵画、彫刻などが街にころがっているというのがイタリアである。私は観光客として行ったのだが、

今日歐洲10ヶ国の中で失業者のいる国はイタリアだけである。而もイタリアは年に人口が40万づゝふえる。この人口の増加はどうしたらいいかというのがイタリア今日の悩みである。半分の20万は主としてアフリカに移民し、その他は歐洲内に移民をしている。後にのべる事であるが、歐洲の他の諸国は何れも完全就業であり、むしろ労働力が足りないため、その不足をイタリア人の労働力が補っているのである。

次に私がイタリアで学んだことは、今日イタリアは輸入超過が6億ドルあるといわれる。而し観光客は多く、昨年などは980万人の人が来て、その人々が6億ドルの半分3億ドルをおとしていく。その外の3億ドルはその他の貿易外収入で補っているそうである。如何にイタリアが観光に力を入れているか分る。これから考え、偶々私がYMCAの国際ホテル学校の校長をしている関係で、興味深く、観察してきたわけであるが、その980万人の内約20万が米国人で、又先に述べたパリの会議の6千人の中約4割が米国人で、如何に米国人が大きな観光客であるかがわかる。又イタリアにとつては不名誉なことであるが、私がまわった10ヶ国中、荷物に注意するようにいわれたのはイタリアだけである。

次いで汽車でスイスへ入ったが、たしかに美しい国であることは事実だが、又その街路の美しいことも特別で、道路に煙草の吸がら一つおちていない。それはこの国の紳士ともいわれる人は歩き乍ら煙草をすわないのであって、一方歩きながらアイスクリームをのんだりするのは紳士といわれる人でも、又大臣でもするそうである。

スイスは平和国家としてよく知られているが、今は人口460万人に対し、70万の軍備をもっている。20才になると4ヶ月の訓練をうけその後毎年短期の訓練があり、40年間軍籍にある。軍服から銃器までを自宅にもってかえり一朝事ある時は24時間以内に軍備につくのである。

この国の時計工業はよく知られている事であるが、資源が少なくて産業は機械器具の製造と農村婦人の刺繡を主としたレース製品である。スウェーデンと共にアメリカに次ぐ高い生活をしている。戦後の経済界で著しい事として外国よりの金利収入と海上火災保険の再保険料のある事をきいたが、興味ある事である。

フランスは今日欧州で一番物価の高い国で、フランの価は日本の円と同価値で円より少し強いという所である。例えば散髪などかみをかけるだけで300フランであり、又食事なども一寸気のきいた所へ行けば1500フランとられる。

そこでパリ人の経済について調べたが、パリでは3

万フラン以下の収入（大体2万5千フランが最低賃金であるが）の人は約20%しかない。3万フランから8万フラン45%、8万から18万フラン25%、18万以上が10%である。この20%を占める3万フラン以下の収入者を貧民階級といっているが、これを日本と比べてどうであろうか。

フランスは昔から人口のへる国といわれていたが、近来非常な奨励をして、人口増加をはかっている。子供一人につき1ヶ月1万フラン、第二番目の子供は1ヶ月に8千フラン余、第三子には減税という補助をしている。その結果人口も少しは増加し、この国の最も大きい問題は10年後に150万の就職口をつくるということである。尙経済については労働者は55才、頭脳労働者は60才で停年となり、その後7割の年金をうける。仕事をかえるという人がほとんどないといっている。生活の落着きのためであろうか。

パリには2週間いたが、その間に面白く思われたのはパリでは相変らず道ばたにカフェーでたのしくお茶をのんでいる。又街路にたたずむいかのわしい女は少なくなった。その理由としては売春については本人を処罰するというよりも売春によって利益をうくるもの、又売春のことをしりつつ部屋をかけたもの、又売春をさせた両親が厳罰に処せられる事になっている。この為に街の女がへったのであろうが、売春対策を日本と比べ大きな興味がある。

次いで北欧をまわったのである。

各国一日位の旅行でくわしくはみられなかったのであるが、今日ベルギー、オランダ、ルクセンブルグのベネルックス三国は政府はちがうが、経済的には一つになろうとつとめているとき。ベルギーは今回の大戦末期に原子爆弾の材料であるウラニウムが発見されたため富める国となり、戦前に比しより高い生活ができる事になった。この国の人は前回の旅行の時ドイツに対し悪い感情をもっていたが、今回もやはり同じ様に対独感情のよくないのをみて、不快に感じた。

私がオランダで一番失望したのは、アムステルダム等だんだんきたなくなったことである。

それは、人々のいう所によると今は復興で大変であって、まだ道路にまでは手がまわらないのである。

前回訪問した時は、多くの植民地を支配し、その本国は小さいが、何かユツタリとしていたのに引きかえ今度は何か経済的にも非常に行きつまった感じをうけた。これは今回の10ヶ国中こういう気の毒だという感じをうけたのはこの国だけであった。

越えて8月27日デンマークのコペンハーゲン市のYMCAを訪問したのであるが、こういう小国が高い生活をして、失業者がないと聞かされると全く感心する海運及機械の輸出が盛んである。又私が北欧を廻つて

デンマークのコペンハーゲン市の 一场景（自転車の普及振りは婦人の利用者の多いことでわかる）

感じたのであるが、アムステルダムにしても、コペンハーゲンにしてもその自転車の普及しているのには驚いたのである。

次にスウェーデンであるが、この国は北欧諸国中、一番高い生活をしている様に思われた。品質のよい銑鉄と材木という資源に恵まれている事にもよるが、この150年間戦争がなかったということも国民にとっては幸いであった。日本と同じ位の面積で人口はわづか730万である。面白いことは70%の婦人がはたらいているという事である。大学を出た時の月給は300弗に近い、又家族は子供が1人か2人位であった。老後の社会保障がゆ★

ノルウェーの氷河の一部

★きとき、国家はその予算の30%を社会保障につかっている。

次にノルウェーであるが、その人口はスウェーデンの半分位約350万その面積は少しスウェーデンより狭いのであるが、非常に野生地が多いのである。むしろノルウェーがこの野生地が多いにも拘らず大体スウェーデンと同じ位の生活水準を維持しているのに感心したのである。

今度の旅行で儲け物をしたともいえるのはノルウェーのオスロから半島を横断して大西洋岸にでるのだが、大体8時間位の行程中約5時間位全く絶景をみながら行くのである

オスロ市公会堂（ノルウェー）

る。それは日本の長瀬の様なものでもその規模の大きなものであると思えばいい。これは向うの言葉で Fjord (フヨルド) といっているが、地図でみる鋸の如きノルウェーの西海岸の海岸線が入り込んでいるのである。つまり海なのである。何しろ北緯60度をこえているの汽車のをおりるととても寒い。こので汽車工事は世界でも有名な難工事であったという。フヨルドとともに氷河もみた。これは私の初めての経験であった。この辺りにこの国の人々がスキーにくるらしい。ノルウェー人は或いは海賊の子孫であろうか、海賊船をみせる博物館があり、又オスローには Viking (海賊) とい

う名のホテルもあった。

この様に私はいい景色をみせて貰い、各国の社会保障とか、その他国家の福祉政管とかを色々みせてもらったが、ひるがえって我が国がどうかということを考えて、楽しい旅が非常に憂鬱になったのである。

それから海をニュー・キャッスルに渡りスコットランドのエジンバラへ行った。スコットランドの人は自分達はイギリスと国がちがうと誇っている。エジンバラはスコットランドの首都であり、古い城が市街を見下ろし、而も落ちついた雄大な町である。同じ人口 60 万の都市でも オスロ と全く違った気品を感じる。

半日友人につれられてスコットランドの農村をみた。耕作地の単位の大きいのに驚く。少し登っていくと山又山と連なり、みわたしても家も何もない所に羊が 10 頭、20 頭と放牧してある。勿論夫々飼主の印がつけてはあるが、ほんとに野放しである。雨、雪にかかわらず、そのまま食物は彼等勝手に草を喰い、一年に一回、春季に毛を刈取るのである。冬になると寒いので毛は又どんどんはえてくるのである。私は大自然の中に羊を野放しにしてあって、如何にもその雄大さにみとれたのであった。

エジンバラの友人がその地の社会保障をくわしく話してくれた。医療費の不要はもとより、入歯、眼鏡まで無料である。失業の時、病気の時の保障の事もくわしく聞いた。そして彼はこうなつては飢えるということとは不可能なことだと語つた。忘れられない言葉であり、今でも耳にこびりついている。彼等は戦後の生活をここまでもってきたのである。彼は又現在対日感情が非常にわるい。それは戦争中の感情がまだなおらず又日本はイギリスの綿業の競争者であるためと語っていた。そして日本から出来るだけ沢山の日本人がきてその感情を正す様につとめることをすすめた。

次にロンドンに下った。まだ被害をうけたままの建物もある。こゝで私が面白く思ったのは西洋建築で、高い建物の一階だけを直して使い、又余裕ができれば二階三階へと順々に直して使っていくということである。これは街を歩いていると街の体裁をなしているが、例の御存知の二階のついたバスにのると未だ二階以上の復旧していない建物がたくさんある。

又ロンドンを歩いて、婦人の車掌が多く、又運転手など黒人が多い。これは労働力が足りないのであって黒人などは或る限度まで無条件に採用している。

次にドイツの新興都市デュッセルドルフを訪ねた。この国民は先の英国と比べその対日感情は極めてよい中には我々は日本と一緒に戦争を初めながら、先に手をあげて了った非常にすまない、又私は大島大使をよく知っている等。とにかくその対日感情はよろしい。

まずドイツにて感じたことはすべてが生気にみちているのであって、私が或る子供の処に招かれた時その子供が歌をうたって歓迎してくれるのだが、その挙動動作がいかに活力というか、バイタリテイに溢れていた。自然こういうことが、或る人が英国人は一日に 4 時間しか働かないが、ドイツ人は正味 8 時間はたっているというのである。ここに、英仏がドイツに対して大きな脅威の念を抱き、ドイツはその根強い復興力をもって欧洲において何かの形で大きな役割を演ずることになるものとも思われる。

又ドイツの共産主義に対する考え方も、私は駐独大使にも、又現地の人々にもきいたのであるが、それは心配はない。我々の国民は自由にその主義を決定する能力をもっている。又面白いことに東に近よるに従いその共産主義に対する智識は深くなり、何というか医学的にいえばコンミュニズムに対して免疫になっているのである。

以上に各国の事情について大体のべたつもりであるが、少し**全体的なことをのべてみたい**と思う。

私など旅行者が街のウィンドーをみても、中々立派で又贅沢品もかざっており、現地の新聞記者などのいうことをきいても、**ヨーロッパの復興は大体年半前にできた**といっている。一応復興は完成したのでこれから一応落ちついた状態になり、イギリスなどこのまゝ放任すれば又贅沢品がでてきて、その生活もぜいたくになっていく恐れがあるといっている。

そこで先程お話した一般の人々の生活状態をみてもドイツにはまだ少し失業者があるが、イタリアを除いては大体完全就業の状態です。又社会保障は行きとどいて老後の懸念もなく充分にその生活を楽しんでいるといえると思う。戦争からここまで復興して来たということは感嘆すべき所である。

私は前回旅行した時には日本人は 1 対 1 では何も彼等に劣るとは思わなかったが、これが 10 対 10、100 対 100 人ということになるとその公德心とか何かで何かひけ目を感じたのであるが、今回はそういう感じはなかった。

たゞパリ、ロンドンなどをみても、何か日本の政治力、経済力に於て劣るものがあるのではないか。現地の人々はさしずめスペイン位かなどといっていたが、我々日本に居ると分らないが、非常に貧しいという感じがして帰ってきたのである。

又それからヨーロッパに於て感じたのであるが、**ヨーロッパに於けるアメリカ化**というか、アメリカの勢力が非常に浸透しているのである。

街のショーウィンドーなどもアメリカ商品がはらんとまではいかなくとも、たくさん陳列され、又英語についても、我々イギリス英語を習って来たものが英

人の英語の演説がききづらい。又あちらの人と対話をしてもフランス人は英語を話さないが、ドイツ人、スカンジナビヤ諸国にしてもその子供から実に英語をよく話す。又ドイツ人の英語のうまくなったのに感心した。しかもその英語がイギリス英語でなくて、アメリカ英語であるから面白い。とにかくアメリカの力の歐洲にひろがってきたことは明らかである。

そのアメリカ人に対する考え方は腹をわって話さないが、顔をしかめているのではないかと思う。ゆっくりした生活の中に元気な弟分の生活がやってくる。そのテンポは速い。豊富な資源と巨大な製産に裏付けられたテンポである。好まない乍らもこれに随はざるをえない。ましてマーシャルプランによる大きな援助をうけている。スピードは混乱する。

例えばアメリカ人は30分で食事をすませるが、パリでは2時間かかる。しかしそのパリにもアメリカ式のカフテリアができた。フランス人の好みには全く反す

るカフテリアである。ロンドンのオックスフォード通りにアメリカ式の10セント店ができた。こんなものは戦前にはロンドン人が許さなかったであろう。歩き乍らもう数年してもう一度歐洲を歩けばこのアメリカ化は一層強くなっているだろうなどと考えた。

最後にこれは困ったことであるが、日本人は至る所で日本の話をする。その話は人口8千万、そして年に100万人位ふえるというと皆驚く。そして彼らは必ずその人口のはけ口はどうするんだと質問する。我々はこれに対する回答はできず、又政府自身もこれに対する答えはないのである。彼等は日本は貧しいということは分った。而し矢張り人口問題はこの貧乏の大きな原因だということを知っている。そして日本がうなずける人口対策をたてれば協力しようじゃないか。野放しではどうにもならないといていた。政府、学者が協力して日本人の人口対策を是非速くたててほしいものである。

医 科 器 械 会 館

昭和三十一年度

日本医科器械学会総会

講演者募集

第三十一回日本医科器械学会総会（総会議事及び講演）は昭和三十一年四月六日午前九時より東京都文京区春木町三の八 医科器械会館に於て開催致します。左記事項御参照の上、奮つて御応募下さることを希望いたします。

記

- 一、申込期限 昭和三十一年二月末日
 - 一、講演発表時間 一人一題について十五分以内
 - 一、内 容
 - (一) 医科器械器具装置に関する医学者の研究発表
 - (二) 会員の発売器械に関する講演
 - (三) 従来発売されている医科器械器具装置等の取扱い方法、構造機能、材質等に関する講演
- 但し、(二)及び(三)については自家宣伝に陥らぬよう御注意下さい。
- 【備考】講演者多数あるときはその数を制限することがありますから予め御諒承下さい

- 一、抄 録 四〇〇字以内
- 一、申 込 先 日本医科器械学会
- 一、スライド・プロジェクター使用希望の方は予め御申添え下さい

東京都文京区春木町三ノ八

日本医科器械学会

電話 小石川(92)六七六一